

『税金と私たちの関わり』

宮代町立前原中学校 1年 川島 実生

税金が人間の自立の支援に役立っていると思うことが2つある。

1つ目は、祖父が社会保障の仕事をしていたとき、生活保護を支給したり、一人親家庭への支援などをしていたりした。生活保護とは障害者や病気などで働けない人に、生活費を支給する制度だ。税金を正確に支払わないといけない仕事だった。そのとき出会った家庭の中に塾に行けなかったり、家族が勉強を教えることができなかつたりしたので、学力がつかず高校進学をあきらめていた子供たちがいた。そこで、夜間中学校を作って、無料で学習できるようにした。国が税金で生活保護を支給するけれど、税金だけで生活するのではなく、自立していけるようにしていった。私は、祖父が重要な仕事をしていたことに驚いた。そして、税金に関わる仕事をしていたことも知った。また、税金(生活保護)で生活はできるようにはなるけれど、その子が大人になったときに働いていけるようにするために、子どもたちに勉強を教えていたのだなと思い、カッコいいなと感じた。しかし、生活保護というのは、実際にうそをついてだます人もいるため、その家庭が本当に障害者や病気を持っていて、お金が必要なのかを判断するとても責任重大でもある。そのため私は祖父の仕事を誇りに思った。

2つ目は、特別支援学校での話だ。私は今年、宮代特別支援学校に行き交流する機会をもった。いろいろな障碍の子供たちと遊んだり、話したりして、楽しい時間を過ごした。そこにあったのは、座布団のついた板にローラーがついている椅子や手と足が暴れないようにする椅子などさまざまだった。ほとんどの子がその子の特性にあった椅子に座っていたのだ。それらの椅子も税金で購入されていると思い、社会保障は一人一人に応じた物にまで、浸透していると分かった。どの子どもたちも笑顔でニコニコしていて、先生方が子どもたちに優しく接しているのが印象的だった。私は、その子たちとのふれあいの中で、多くのことを学んだ。そして、それを少しでも支援できるようにと工夫したものに税金が使われていて、私もその子たちの支えになっていることを知り、うれしくなった。

私たちの身の回りには多くの税金が使われている。税率が上がった理由の第一は高齢化による社会保障の費用が増え続けていることである。そして次世代に引き継いでいくには安定的な財源の確保が必要になる。私は今まであまり考えたことのない税金について考え、私たちの税金が人々の自立を支援するためにも、使われていたことを知り、より税金と私との関係が近く感じるようになった。